

究極の世界エネルギー革命

集大気熱発電システム



自由を我等に 地球上に存在するエネルギーのほぼすべては太陽の恩恵であり、これを受ける自由は我々万人が等しく持つ固有の権利であり、これを、だれでも、いつでも、どこでも、自由自在に享受できるのが、シンプルで安心安全安価な

集大気熱発電システム（著書、「人 夢、未来」に集風力発電システムと共に詳述）です。（実用新案登録第 3187644 号）

この集大気熱発電システムは、強大な太陽エネルギーを受けた地球上に遍く存在する、大気熱をもった大気を収集圧縮して高温を得て（気体は圧力がかかると温度が上がる＝ボイル・シャルルの法則）熱媒体の水を蒸発させ、この蒸気で蒸気発電を行うものであります。なお、熱媒体に沸点が 36 度 C のアンモニア液やペンタン・フロン液・或いは沸点が約 15 度 C の代替フロン液などの低沸点流体を使って効率発電を行うこともできます。

集大気熱発電システムは、地球上で、いつでも、どこでも、誰でも、常に身近に存在し接している大気で、毎日、昼夜、晴雨などに無関係且つ無限に継続して身近で発電して利用できます。

このシステムは、CO₂ を排出せず、地球環境を良くし、エネルギー源の太陽が全世界で一年間に消費される全エネルギーを 30 分で賄うことができる寿命 54 億年の無限無尽無料であります。そして、このシステムで得た電力の一部を使い同様工程で反復連続して集大気熱発電を行い、余電力は、自己使用の自産自消するか、蓄電するか又は売電などすることができます。

この集大気熱発電システムを、我々及び世界そして全人類の究極のエネルギーとして、その発展普及に皆様のご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

655-0872 兵庫県神戸市垂水区塩屋町 2 丁目 4 番 56 号

究極の世界エネルギー革命 普及会

代表 脇田正男

二、集大気熱発電システム—エネルギー自給自足のキリ札

(1) 灼熱の大気はグッドエネルギー

地球にふりそがれる太陽エネルギーはわずか一時間分で世界が一年間に消費するエネルギーに相当するといわれますが、このエネルギーは永久に不減不変であり、安全且つ清潔です。この太陽の熱エネルギーによって生ずる大気温度は熱帯地方で最高気温五八・八℃、最高年平均気温は三〇・二℃となり、亜熱帯地方でも最高気温四〇℃以上で、最高平均気温は二七℃程になります。このような大気熱をエネルギー源として利用し電気エネルギーに変えるため、太陽熱により上昇した大気を圧縮して高熱を得、これにより、発電、製水、製塩を継続して行うシステムです。

(2) 集大気熱発電システムのメカニズム、原理

集大気熱発電システムは、太陽より地球に与えられた利用可能な大気熱を含んだ大気を効果的に圧縮して、これより高熱を得て、これを利用して蒸気等を発生さすなどして発電を行うシステムであり同時に製水製塩も行えるシステムです。気温三

○℃で体積一〇〇^mの大気を体積一〇^mの1/10に圧縮すると、気温は単純計算で十倍の三〇〇℃になります。このような高熱を利用して、海水や淡水などを過熱して蒸気を発生させ、タービンを動かし発電を行います。このようにして得られる電力エネルギーは、大気熱圧縮に使用した電力エネルギーの約6倍以上となります。又利用した後の蒸気を利用して、製水し、製塩も出来ます。このようにして得た電力を再び高温等の大気の圧縮に使い、循環して高熱を得、これで再び発電を行います。これを効率化し、くり返し行うことに依って得た多大な電力を広く利用するシステムです。

(3) 集大気熱発電システムの効果

太陽より地球に与えられる熱により、地球大気平均気温は一五℃位ですが、当然地域によっても異なり、北極や南極方面の極寒の地から、赤道直下の熱帯地方やそれに連なる亜熱帯地方は、年平均の気温が高く、真夏時には四〇℃前後の高温となります。

このような酷暑、灼熱の大気もエネルギーの宝庫となり、二十四時間、三六五日、

循環型、永久不滅のエネルギーの創造となり、エネルギー問題の解決、地球の環境改善、電気で水を分解して水素を製造することが出来るなど、新産業の創出等に多大な貢献を果たすこととなります。

(4) 集大気熱発電システムの経済性

集大気熱発電はその熱源を広く不変恒久の大気に求めるため、熱源費は無料で無尽蔵であり、高熱で蒸気を発生させタービンを回すなどの技術はすでにほぼ完成されたものであるので、効率よく、シンプルに行えるし、又電力消費地に近く地理的に有利なところで発電出来るので、電力発送費等が節約して安く行え、送電ロスも少なくて済み、非常に安価な電力を供給することが出来ることとなります。

(5) 集大気熱発電システムの環境性

集大気熱発電システムは火力発電や原子力発電、天然ガス発電等に比べ化石燃料などを燃やすとか、ウラニウムを使用するとかしないので、大気を汚すとか、放射能問題とかに無関係であり、空気中の大気熱を活用するので、地球環境、地域環

境に良好な発電システムとなります。

(6) 集大気熱発電システムの普遍性

集大気熱発電システムは、熱帯地方亜熱帯地方を問わず、年中無休で稼動することが出来るし、電力需要地等への近接性にすぐれておりますし、日本でも夏期などは、道路のアスファルトが融け、裸足で砂浜に立っていることが出来ない程の高温にもなるぐらいですから、集大気熱発電は時期を限れば地球上の相当広範囲の地域で利用出来るはずです。

又盆地などのようにして、通気を抑えるような形とし、そこでの高い大気熱を利用して集大気熱発電をすれば、より広い地域で効果的に行うことが出来ますし、安価な電気エネルギーがあれば、至近の暑さに苦しむ都会社会に高原の清浄冷気をパイプラインなどで送風することができます。

(7) 集大気熱発電システムの今後

集大気熱発電システムは、このように、その経済性、循環性、不滅のエネルギー

性等々の数多くの利点があります。

世界では今なお十六億人が電気のない生活をしているといわれていますが、発展途上国や地域産業や経済にも大きく貢献で出来ます。

集大気熱発電システムは又同時に飲料水や食塩をも同時に製造することが出来ます。

集大気熱発電システムを、地球と人類の輝く永遠の未来のため、全人類が力を合わせ発展させねばなりません。